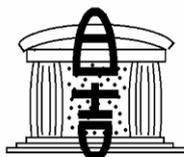


学校だより



特性(個性)を強みとして活かす

校長 続橋 正寿

内閣府の施策である第5期科学技術基本計画(Society5.0)では、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を我が国の目指す未来社会の姿としています。これによる社会の構造変化は「みんなと同じことができることが大事」から「他者との差異や違いに意味や価値がある」へという大きな変革をもたらし、日本社会全体が意識改革等重要な岐路に立たされていると言われています。

これに伴い、学校教育にも大きな転換が求められていて、より一層一人ひとりの特性(個性)や関心に応じた教育をして、社会で生きていくうえで、その子の強みとして活かせるように資質・能力を引き出し、認め、励まし、支援することで自己肯定感および自己有用感を育てていく必要があります。

これらのことは、新しく、難しいことを言っているように思われますが、学校教育の中でこれまでも大切にしてきた視点です。「みんなと同じことができることが大事」という視点は、社会に適應するためには、ある程度必要なことですが、上手にできなくても社会の中で活躍することはできます。できないことで下を向くのではなく、できることで上を向くのです。大切なのは、私たち大人が子どもを社会の型に無理にはめようとするのではなく、その子の特性(個性)をプラスに活かせるように導いていくことです。自身の特性(個性)を持ち味として発揮することで人は大きく成長します。自信にもつながります。そして、大人になったときにやりがいをもって社会で活躍することができます。

日吉台中学校では、生徒一人ひとりのよいところを見つけようとする意識をもち、特性(個性)を肯定的にとらえることを大切にしています。そしてその特性(個性)を「認めて褒めて伸ばす」教育を今後も進めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

1年生

日吉台中学校に入学してから半年が経とうとしています。中学校生活には慣れましたか。4月に学年主任から「大切にしてもらいたいこと」の話がありました。「あいさつをする」「ありがとう・ごめんなさいの心をもつ」「相手や周囲を認めて思いやる」です。

あるクラスの授業中、プリントを配ると「ありがとうございます」と声が返ってきます。そのプリントを後ろの人に渡すときには、後ろの人が取りやすいように渡しています。プリントをもらった人は「ありがとう」と声をかけていました。その場面を見るといつも心が温まります。

たくさんの方が学校生活を営んでいます。考え方、好きなもの、得意・不得意なことなどが自分と違うので、意見が合わない時もありますね。でも、ちょっとした思いやりがみんなを幸せにするのではと考えています。みんなで思いやりのある生活をしていきましょう。

2年生

夏休み前になりますが、特活の時間に「川柳で振り返る学校行事（体育祭）」というテーマで川柳に取り組みました。あの日の熱い想いや歓声などが鮮明によみがえってくる素敵な作品ばかりです。ほんの一部ですが、紹介します。

- ・梅雨の間に みんなで作った チームの輪
- ・体育祭 走った次の日 筋肉痛
- ・あきらめず ゴールに走って 勝時間
- ・一人だけ スローモーション 麻袋
- ・大縄に 思い込めて さあ跳ぶぞ
- ・綱取りで みんなダッシュ 綱奪取
- ・体育祭 勝っても負けても 優勝だ
- ・応援席 気持ちひとつに リレー見る
- ・百メートル なぜか平地で つまずいた
- ・炎天下 それにも勝る 大熱狂
- ・応援で 声をからした 体育祭
- ・徒競走 三位と僅差 「もういやだ」
- ・体育祭 エールを送る 仲間たち
- ・走るときカーブのところで失速だ
- ・麻袋 靴もて走る ゴールライン
- ・一本差 その悔しさを 合唱へ

3年生

画竜点青 ～空よ、水よ、自由に染まれ～

3学年は、1号棟2階と新校舎それぞれに、写真の学年目標横断幕を掲げています。学級委員会と美術部3年生によるコラボ作品で、いつ見ても、力強さとさわやかさを同時に感じる素敵な作品に仕上がっていると思っています。

「画竜点睛」とは、『ことを完成させるために、最後に加える大切な仕上げ』という意味がある言葉だそうです。日々、横断幕に見守られながら、日吉台中学校の生徒として中学校生活の仕上げの時期に入った青学年。夏休み中の部活動では、3年間をしめくくる大事な試合・大会等で活躍し、素晴らしい結果を残せた人たちがたくさんいました。これから先の道のりで支えとなる、大きな自信を得たことでしょう。

部活動を引退した人たちも、引き続き活動を続けている人たちも、夏休みの多くの時間を受験勉強に費やしたようです。どんなに机に向かっても、受験生というものは、不安に押しつぶされそうになったり、孤独を感じたり、逃げ出したくなったりするものです。そんな時こそ、クラスや学年の友だちと支え合って一緒に乗り切りたいと心から思います。きっとみんな、同じ思いをかかえているはずですよ。

青学年のみなさん、あなたは一人ではないということを忘れないでください。そして、描かれた竜のようにしなやかにたくましく、試練の時を乗り越えてください。応援しています！

